

くにしていしせき
国指定史跡



ぶんごこくぶんじあと
豊後国分寺跡

指定日：昭和8年2月28日



豊後国分寺跡史跡公園全景

私たちが案内します！



豊後国分寺伽藍模型



大分市歴史資料館

OITA CITY HISTORICAL MUSEUM



豊後国分寺跡史跡公園マップ



散策しながら
歴史を学ぼう！

国分寺とは、奈良時代に仏教の教えをもって国を護る鎮護国家の考えのもと、聖武天皇の詔によって、全国に造られた寺院の総称です。豊後国分寺は、発掘調査などによって寺域がおおよそ東西182m・南北300mの広さを有し、中門・七重塔・金堂・講堂・食堂など壮麗な建物が南北に並ぶように建っていたことが分かっています。天平勝宝8年（756）に仏具等が下賜された26ヶ国の中に豊後の名がみられることから、この時期には建立されていたと考えられています。

現在、約53,000㎡の寺域のうち約32,000㎡を史跡公園として整備し、隣接する大分市歴史資料館とともに市民の憩いの場となっています。

ほくせいち くたてものぐんあと

①北西地区建物群跡

建物横の大きな穴の中から、墨で「尼寺」
「尼寺天長九年」と書かれた土器が見つかりました。

※資料館で実物を展示しています。



大分市指定
有形文化財



大発見ひゃー！

じきどうあと

こうどうあと

②食堂跡・③講堂跡

食堂はお坊さんが食事をするところで、講堂はお経を読んだり修行をするところです。建物のあった場所を盛り土で保存し、当時の大きさを復原しています。



講堂跡には礎石も
復原されているわよ



こんどうあと

げんいおうさんこくぶんじやくしどう

④金堂跡（現医王山国分寺薬師堂）

金堂は寺の本尊を安置するところで、現在は薬師
如来を安置した薬師堂になっています。この建物
には当時の礎石が利用されています。



わかんない



ななじゅうのとうあと

げんいおうさんこくぶんじかんのんどう

⑤七重塔跡（現医王山国分寺観音堂）

全国最大規模の67mもの高さの七重塔が建っていたと推定され、現在の建物のまわりに当時のまま礎石が残っています。

※資料館で1/10の七重塔復原模型を展示しています。



ぼんしょうちゅうぞういこう

⑥梵鐘铸造遺構

梵鐘（釣り鐘）を作ったところで、今は民家の下に保存されています。発見例の少ない貴重な資料です。
※資料館で1/4の復原模型を展示しています。



ちゅうもんあと

⑦中門跡

初期のお寺は南に面して建てられます。南門・中門をくぐり、塔や金堂に行けるようになっていました。中門と金堂は、七重塔を囲むようにめぐる回廊でつながっていました。



お寺の入り口ひゃ

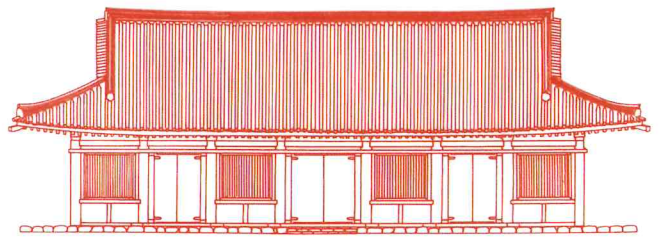


ぶんここくぶんじがらんはいちず
豊後国分寺伽藍配置図

豊後国分寺の主な遺構

◎ 食堂跡

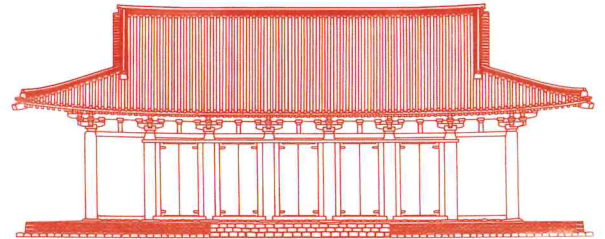
食堂は、僧侶が食事をする場所です。礎石建物ではなく、おおかたはつたてばしらたてもの大型掘立柱建物であったことが分かっています。建物跡は、南正面と東側面部の現状をそのままにして新旧の建て替えが行われています。旧建物跡に比べ、新建物跡の方がひとまわり小さくなっています。(旧建物：東西23.4m×南北12m)



食堂復原図

◎ 講堂跡

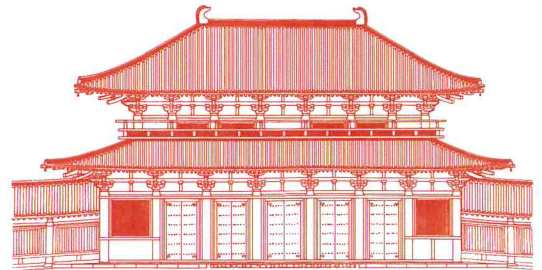
講堂は、経典などを講義する場所です。北側中央部に石積みきょうどうの階段状の施設が作られていました。基壇は、(建物の基礎)きだん端部に礫石列を作り、これに接して瓦積みをした化粧基壇です。現在礎石が復原されており、建物は間口7間×奥行4間(東西20.7m×南北11.8m)であったと推定されています。



講堂復原図

◎ 金堂跡 (現医王山国分寺薬師堂)

金堂は、仏像(本尊)を安置した場所です。基壇は、大規模な掘りこみ基壇、きていぶ基底部分には石を敷き詰めて、その上に粘土を丁寧ていねいに版築したものです。基壇の規模は東西約32.6m、南北約21.6mです。建物は間口7間×奥行4間(東西25.16m×南北14.21m)であったと推定されています。



金堂復原図

◎ 中門跡

中門は、南門の北に造られた門で、回廊によって金堂と結ばれていました。礎石、基壇などは見つかりませんが、回廊に並行する溝が中門の前面まで及んでいないことから基壇の規模が推定できます。基壇は東西14.79m×南北9.18mで、この上に正面9.18m×奥行5.92mの門が推定復原できます。

◎ 梵鐘鑄造遺構

塔跡から南東へ約80mの位置で発見されました。この場所は回廊内側の東隅にあたります。鑄造坑は9世紀初め頃と考えられており、銅を溶かした溶解炉の一部も発見されています。残存していた遺構の規模や鑄型を取り除いた後の内型・外型の大きさから、直径約1mの梵鐘が推定されています。

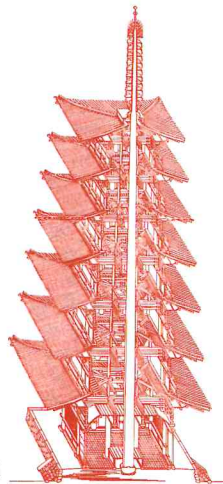
◎ 北西地区建物群跡

寺域を区画する西側溝から西の方へ約30mの地点からは、掘立柱建物跡4棟、さくれつちこう柵列遺構1条、どこう土坑4基が発見されました。土坑の中からは、ぼくしよどき墨書土器も多く出土し、特に「尼寺」・「尼寺天長九年(832)」と記された墨書土器の存在から、尼寺は国分寺に近接した西側の一帯が有力地と推定されています。

◎ 七重塔跡 (現医王山国分寺観音堂)

七重塔は、金字金光明最勝王經を安置した、国分寺のシンボリックな建物です。一辺10.66m(3間)の基壇や礎石、塔の中心柱を支えた心礎がほぼ当時のまま現存しています。総高67.3mの壮大な塔であったと推定されており、全国の国分寺の中でも屈指の規模を誇っていたと考えられています。

※文章中の「間」は柱間のことで、長さの単位ではありません。 七重塔復原図



大分市歴史資料館利用案内

■開館時間 9時から17時(入館は16時30分まで)

■休館日 月曜日 但し祝日の場合は開館
また第1月曜日は開館し、翌火曜日が休館
祝日の翌日 但し土・日曜の場合は開館
年末年始 12月28日～1月4日

■観覧料 大人 200円(団体 150円) 高校生 100円(団体 50円)
中学生以下 無料 ※団体は20名以上
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。
◎入館時に受付で手帳を提示してください。
※特別展開催中は別料金となる場合があります。

■住所 〒870-0864 大分市大字国分960-1
TEL 097-549-0880 FAX 097-549-5766